

た。第一に「商業の優位と資本集中の早熟な發生」がある。ジャーディン・マジソン商會を先頭とする貿易商人のコンツェルジ的資本集中、にもかゝらず資本構成の序列における香港上海銀行、貨幣取引資本、貿易商會、商品取引資本、各部門企業、産業資本という序列の特質、およびその序列における商會、商品取引資本のもつ比重の決定的優位性は、資本の前期的性格を問はずして物語つてゐる。第二に「凡ゆる企業が自己資本に依據し、他人資本を導入していない事實」がある。株式会社でありながら株式を公開せず、また株式を公開しながらお譲渡制限條件を附している事實は、まさしく企業集中體の「同族會社への傾向」を示すものであり、その前期的獨占性を現わしているものといえよう。第三章「香港における『獨占』資本の形態」は香港イギリス資本のかような特殊性を明かにしてゐるのである。

「イギリス本國における産業的中産階級の勃興」とこれに基く産業資本の擴充と展開、これが生み出す近代的商品、綿製品の販路のために仕える自由貿易、その精神と運動との東洋における擔當者こそは自由商人に他ならなかつた。その自由貿易への情熱と不屈の實

踐とは高い歴史的意義を賦與されねばならぬ。

しかるに香港イギリス資本は「その高揚する自由貿易精神にも拘らず、先には阿片貿易に關係し、また十九世紀八十年代にすでに完了した前期的企業集中組織によつて、範疇的な前期的性格を帯びることになる」。それは「西ヨーロッパの最新の資本集中に對しては、明かに特殊である」。いまかような類型をヨーロッパに求めるとすれば、それは封建的社會の末期、十六世紀の前期的獨占商人、たとえばフツガー家の如きに、むしろ求められるのである。これはいつたいなぜだろうか。「いうまでもなく、前近代的社會たる清國に密着することによつて規定を受ける結果に他ならない」。最初にふれたように、イギリス「東洋貿易」の性格を規定する契機は三つかぞえられた。著者はイギリス本國社會の構造と發展の法則をたえず前提におきなながら、貿易の擔い手である「商人」の歴史的な性格を分析の對象として來つた。そして著者は香港の近代的「自由商人」の性質の中に、「自由商人」の本來的な運動法則をもつてしては律しえない或る前期的な歪みを見出したのである。これを解く鍵は當然清國社會の規

定的契機に求めなければならぬ。しかし本書はこゝで終つてゐる。著者もいうように、問題はなお今後に残されてゐるのである。(A5版・日本評論社・定價三九〇圓)

——北村敬直——

北九州古文化圖鑑 第一輯

北九州の地は考古學的にみて、我が古代文化の上に極めて特色ある役割を果してゐる。

即ち地理的にみて大陸に最も近い位置を占めるため、古代の先進文化國中國及朝鮮の優れた文物が先ずこの地に流れ入つてきたばかりでなく、それらを日本的に消化する能力をも持つており、先史時代のある時期に於ては、我國の最も著しい文化の中心地であつた。その後中心が畿内に移つた後に於ても、やはり新文化流入の通路として、常に外國からの刺戟をうけ、他地方にみられない特色ある様相を呈しているのである。

所が従來この地の特色ある文物に關しては十全な形で學界に紹介される所が少なかつたために、正しい理解がなされなかつた所がある。本書はかかる不足を補うために福岡縣高

等學校教職員組合が教材として寫真集の刊行をはかつたのである。

昭和廿四年六月一日から五日間福岡市岩田屋百貨店で開催された「福岡縣古代文化展」は、福岡縣とその隣接地から發見された考古學的資料數千點を九州考古學會員が陳列したもので、連日熱心な觀覽者が會場にあふれて成功をおさめた。ところが、これら陳列品をそれぞれの所有者に返却すると、もういちどこれだけの資料を一堂にあつめることはむづかしいといふので、この際これをもとにして寫真集を刊行してほしいとの希望が多くの人からのべられた。これにこたえて、九州考古學會同人は會期終了直後陳列品の大多數を撮影して圖版作製の準備にとりかゝり、たりない部分の資料を各地からあつめて、ここに北九州古文化圖鑑を編纂した。これを福岡縣高等學校教職員組合が學校における教材として適當のものと認め、經費を支出して刊行を實現するはこびとなつたものである。

か堅穴遺蹟や埋葬址等の寫真もおさめて、四六倍版コロタイプ刷、ルーブリーフ式四十枚の圖版となつてゐる。四十三項にのぼる解説書とともに紙製の帙にいれてあるが、各學校の教材たるにふさわしく、實用的な體裁であるのは好感がもてる。解説は九州考古學會を主宰する鏡山猛、森貞次郎兩氏の執筆で、必要な參考文獻をも舉げる懇切ぶりである。學校の郷土教材として最も推賞するに足るとともに、博物館施設を持たない北九州附近の研究者にとつては、好箇の入門書とならう。然し本輯の特色はかような郷土史的な點にのみ存するのではない。北九州が占める考古學的位位置によつて本輯におさめられた資料中には日本考古學發達史上古典的ともいふべき代表的な遺物遺蹟があり、また最近の發見で、未發表のものも少くないので、ひろく一般の考古學專攻者にとつても利益となる點が多いと思ふ。たとえば、大分縣中津市宮永發見の土偶、福岡縣築上郡南吉富村出土の繩文土甕、京都郡犀川及び福岡市比惠の彌生式堅穴遺跡、糸島郡怡土村の支石墓、築紫郡春日村、大字須玖における昭和廿四年發見の鐵戈、岡村大字春日發見の青銅製鋤先と鏡などの如く、本圖鑑によりはじめてその形狀と學界に示すも

のがすくなくない。前述の如く繩文式及び彌生式文化をこまかい時期にわけたにかかわらず、限られた地域の資料であるため、或る時期に厚く他に薄いへんば配列となつたのはやむを得ないが、考古學一般の教材として使用する際は適當な概説書等によつて補正する必要がある。また圖の刷上りが不鮮明であるため遺物になすむことまれば初心者にとつては、特徴を理解しがたいものが若干あるであらう。かような瑕瑾はあつても、然し乍ら本書の學術的價値は確固として動搖するものでなく、福岡縣高等學校教職員組合がその出版を實現せしめられた熱誠に對し謝意を表さざるを得ないし。九州考古學會の本輯編纂の功績を高く讚美したい。われわれは古墳文化に關する資料をあつめた第二輯が早急に出版されることを期待してやまない。

(昭和二十五年二月刊福岡市洲崎土手町福岡高等學校教職員組合發行 非賣品)

——有光教一——

服部之總著

續親戀ノ一ト

新興佛敎の開祖といわれ、且宗敎人として